

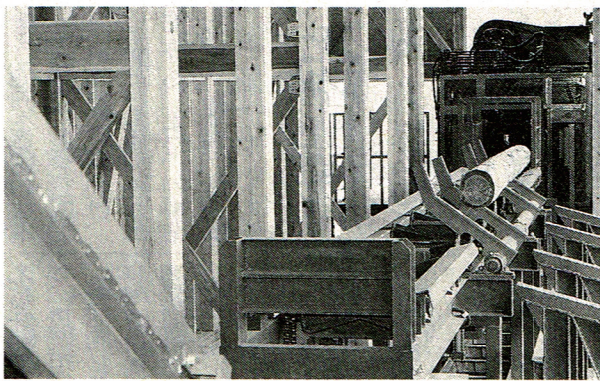
# 建設工業新聞

2014年4月19日(土)3面に掲載

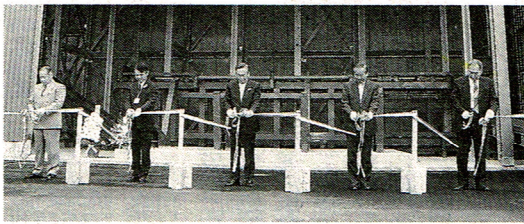
## 間伐材の利用拡大へ新増設

### 美山町森林組合 原木皮剥機械施設

落成式行う



機械上、次々と流れ出す住宅地盤改良の木杭



渡辺一夫組合長らでテープカット

美山町森林組合(渡辺一夫代表理事組合長)が、設が完成し、18日現地で、おもに住宅の地盤改良用「木杭」生産に充てる施設が完成し、18日現地で落成式が執り行われた。

福井市 境寺町10

18日現在の木材加工工場を敷地拡張し工場増設。原木の皮剥き機械設備一式を新規導入し間伐材の利用拡大につなげる狙い。

導入効果について、現行の環境パイルや公共工事用基礎杭では設計常数を一律に、円柱加工した統一形状が主流を踏まえ、今後は特にコスト面に配慮し、皮剥きだけ施したテーパ状の木杭の需要が見込まれ、そのほか▽原木丸太を円柱に削る工程で皮剥き工程がない▽皮剥きした状態での土場貯木は原木よりも乾燥が速く乾燥費軽減と貯木時の防虫効果も見込める▽今回導入のリングバーカーは直径50センチまで対応可能で円柱加工製品以外の、木材加工製造の前処理の皮剥きに非常に有効▽1日6時間稼働で1000本の木杭皮剥きが可能などとPR。

渡辺理事長は「従来のコスト高を克服し、今後は機械化で集約化を図り販路拡大」などと意欲を示し、県の農林・土木関係者や飛鳥建設、兼松日産農林、ABコーポレーションら施工関係者も新拠点の誕生を祝った。

今後は住宅の地盤改良材(環境パイル)として12センチ×3センチ材で2000本約200立方メートル、土木工事の地中利用の木杭16センチ×22センチ材で4000本約400立方メートル、治山林道工用資材6センチ×20センチ×4センチ材で1万本約200立方メートルなど合計1000立方メートルで売上5000万円を目指す。

なお、施設建設は機械工事が武生松源商店、電気工事が横山電気、造成工事が山田建設、舗装工事が味見建設、建屋基礎工事が磯松組がそれぞれ担当した。